

中韓両国における村上春樹文学翻訳版本の比較研究

—『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』を中心に—

権 慧

一. はじめに

一九八〇年代から村上春樹文学は中国語圏と韓国に紹介され、やがて「村上ブーム」、「ハルキ旋風」などを引き起こし、「非常村上」や「ハルキシンドローム」などの流行語までを出現させた。その人気はこの二十年余り静まることなく、年々高まっている。二〇一三年四月村上春樹長編小説『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』（以下『色彩...』と略す）が日本で刊行されるとわずか七日で一〇〇万部を突破する一方、中国と韓国では『色彩...』が発売される前から大きな話題となり、激しい版權争奪戦を経て、韓国では二ヶ月後の六月に、中国では半年後の十月に訳本が出版された。外国の読者にとっては訳本が村上世界に入る必須の経路であるため、翻訳に関する議論は絶えず起きており、それは単なる直訳か意訳かという問題にとどまらず、村上文学の感性や日本文化を如何に伝達するか、そして外国文化に直面する自国文化を如何に保全するか、あるいは変革すべきかという文化論にまで広がっている。

中国で村上文学が最初に単行本として登場したのは一九八九年のことであり、中国の広西省に位置する漓江出版社が林少華の翻訳で刊行した『ノルウェイの森』である。その後、村上文学は中国の読者の注目を浴び、愛読され続け、現在まで百点以上の訳本があり、合計四回の村上ブームを引き起こしてきたという¹。

そして一九八九年以後のこの四半世紀の間には村上文学翻訳市場に大きな変化が生じてきた。版權制度が整う以前は漓江出版社を中心に、林少華訳が出版されたが、二〇〇一年年末からは上海訳文出版社が版權を持ち、

二〇〇九年までの間村上文学中国簡体字版本を独占的に出版していた。この独占期においても林少華が翻訳を担当していた。翻訳に関する議論が日々高まるなか、二〇〇九年新經典文化有限会社がエッセイ集『走ることについて語る時僕の語ること』の中国語簡体字版權を取り施小煒訳で出版した。同社はさらに二〇一〇年にも再び激しい版權争奪戦を経て、『1Q84』の版權を取得し、その後も『村上雜文集』、『アフター・ダーク』などの村上作品を翻訳・出版した。上海訳文出版社も負けることなく、『アンダーグラウンド』や『約束の場所』などの村上旧訳改訂版を出版しつつづけており、二〇一二年には村上春樹エッセイ集セット、二〇一四年には『村上春樹代表的長編小説十部精裝本セット』を林少華翻訳で出版した。これまで林少華訳は意識などが多いとされてきたが、長編小説十部精裝本セットは大幅な修正が施されている。例えば、訳し漏れの補足、四字熟語の平叙文への改訳、外来語などの直訳等の修正をおこなっている点は興味深い。筆者が二〇一三年十二月に施小煒に面会し、「翻訳観」について質問した際、施氏は「やはり逐字翻訳を重視し、できるだけ原文のリズムを再現するよう努めてきた」と答えた。このような最近の翻訳傾向から、近年、特に二〇〇九年以降では意識から直訳への変換が顕著となっている様子が察せられよう。

一方、韓国では日本で広範な「村上ブーム」が起きた翌年の一九八八年にはすでに『ノルウェイの森』（韓国・サムジン企画出版社）の翻訳が発売されたが、残念ながら読者の注目を集めることはなかった。一九八九年文学思想社が先行する韓国語訳本『ノルウェイの森』と区別するため『喪失の時代』と改題し、新たな翻訳者、柳柳呈の訳本で出版したところ、「ハルキ旋風」を引き起こし、同作は二十年間ベストセラー・ステディーセラーとして韓国読者に愛読され続けた。この韓国の「ハルキブーム」は四半世紀が経った現在でも進行中である。韓国では村上文学には十人以上の翻訳者がおり、版權制度が整っていなかった一九九五年までは多数の出版社が村上文学の韓国語訳を刊行したが、その後、特に二〇〇〇年以来は文学思想社を中心とする少数出版社による独占出版期に入った。しかし二〇一〇年『1Q84』の韓国語訳をめぐる激しい版權争いが生じて以後現在に至

るまでは、多数の出版社の競争期に入っている。翻訳文体は、中国と同様、意識から直訳への転換が見られる。村上代表作『ノルウェイの森』を例にとると、もっとも読者に読まれた『喪失の時代』には多くの書き換えがあり、当時の編集者である任洪彬によると「韓国読者たちの好みにあわせるために、翻訳者と編集者が多くの手間をかけた」²という。任はこういいながらも、二〇〇八年に書き換えを修正し、直訳を中心とした『ノルウェイの森』の新版を自ら翻訳している。新訳では書き換えだけでなく、訳し漏れなどの修正も見られる。

本稿では村上春樹の二〇一三年新作『色彩…』がいかに中国、韓国で翻訳され、受容されたかを比較分析し、中国語訳本（本稿では中国大陆の簡体字訳本のみを対象とする）と韓国語訳本との特徴をまとめつつ比較し、中国と韓国での村上文学の受容状況を考察したい。

二. 中韓両国における『色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年』 の受容状況

『色彩…』は村上春樹にとって『ノルウェイの森』以来のリアリズム小説であり、名古屋を舞台に主人公の多崎つくると幼なじみの四人の「乱れなく調和する共同体」をめぐる物語である。多崎つくるとは大学に通うため故郷の名古屋を離れて上京し、大学二年生の夏休みに帰省した際にその“共同体”から排除された。その後大学で灰田という秋田出身の青年に出会い、唯一の友達を得たが、ある日灰田は奇妙なエピソードを語った後、姿を消した。三十五歳になった多崎つくるとは二歳年上のガールフレンド木元沙羅に大学時代に四人に疎外された理由を究明するよう勧められて、旅に立つ。

『色彩…』は日本では発売前から、新聞やテレビ、インターネット掲示板などのメディアを通して話題になった。中国では同作が発売される前に主人公「多崎つくると」の名前にに関して、「多崎作」、「多崎造」、「多崎創」などどの漢字を当てるのかという話題が SNS を賑わし、同作が日本で刊行された後、ようやく「多崎作」として中国の村上文学愛読者の間で

定着した。激しい版權争奪戦を経て、同作を百万ドル以上の金額で落札したのは新經典文化有限会社であった。そして同作中国語訳は二〇一三年度新浪中国推薦書のトップ一〇に入った。書き込みサイト「豆瓣網」において同作はかなりの好評を得ている。二〇一五年六月十日二十四時までに合計一二一五三人が同作について点数をつけ、その平均点は八・三（十点満点）という高成績となっている。同作に対する書評は四七二件、短評は五三六六件寄せられている。参考までに、二〇一三年ノーベル文学賞受賞者アリス・マンローの短編集『Run Away』（北京十月文芸出版社、二〇〇九年）は、ユーザーによる書評は一八二件と『色彩…』の五割以下、平均点は八点で、『色彩…』に僅差で及ばない。書評の内容に関しては、『IQ84』（二〇一〇年）が中国で刊行された時、訳者が林少華から施小煒と変更され、同作の書評に関しての翻訳論が七九〇件の内二〇パーセントを占め、賛否両論の状況を呈し、林訳の支持者が圧倒的に多かった。しかし、『色彩…』に関しては三二七件のうち翻訳論は四パーセントに過ぎなかった。その中には林訳か施訳かという議論より、施訳に馴染んできたという感想が多かった。例えば「泰斯先生」というユーザーは「施さんの翻訳はまあまあよかった」と述べたあと、林訳の『ノルウェイの森』を取り上げ、両作の内容面での関連性を論じた³。

韓国語訳の『色彩…』は同作の世界最初の外国語訳本であり、二〇一〇年の『IQ84』の十五億ウォンを超える十六億五千万ウォン以上という韓国史上最高版權料で民音社が取得した。同作は韓国で発売される前から大きな話題を呼び、テレビCMのほか、多くの発売記念イベントが企画され、初版部数は二十万部だったが、予約販売部数が十八万部達したため、発売当日に五千部増刷された。韓国出版委員会での調査によると、『色彩…』は発売から七週連続ベストセラー第一位を占め、二〇一三年の教保文庫総合ベストセラー第三位を占めたという。韓国総合検索サイト「ネイバー」での調査によると二〇一五年一月二十日まで同作は七・八八点（十点満点）を獲得し、レビュー数は一八〇三件に達し、六三件の意見書き込みがある。前述のアリス・マンロー短編集『ディア・ライフ』（二〇一三年 文学トンネ出版社）のネイバーでのレビュー数は一三五件と『色彩…』

の一割にも達せず、総合点数は『色彩...』を〇・一二上回る八点に過ぎず、意見書き込みは九件に留まっていた。『色彩...』に関する読者レビューを考察すると、中国では「孤独」というキーワードが多いことに対し、韓国では「喪失」という言葉が多数登場する。一方、前述のように韓国では『ノルウェイの森』を『喪失の時代』と改題し、当時タイトルの「喪失」が読者の共感を呼んだことはつとに論じられてきた。翻訳による読書感想への影響は非常に深いことと伺えよう。

三、「帰化」と「異化」—『色彩』の中韓版本比較

本稿ではアメリカの翻訳理論家ロレンス・ヴェヌティの「帰化」および「異化」に関する翻訳理論を参照したい。藤井省三はヴェヌティ理論を、「帰化」とは、外国語・外来文化の土着化・本土化、「異化」とは土着文化・本土文化の外国化とまとめている。すなわち、文学翻訳を行う際に自国の言語習慣に多く従って翻訳をする方法を「帰化翻訳」、自国の言語習慣よりも、原語の習慣を強調し、外国語の表現を多く保持する方法を「異化翻訳」とする。本稿においては中韓両翻訳版本における「帰化」と「異化」との相関現象とその文化的、社会的意味について考察したい。本稿が分析の対象とするのは『色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年』の第五章すなわち主人公多崎の東京での友人灰田により、その父から聞いた話として謎のジャズピアニスト緑川のエピソードが語られる章であり、同章を八十五節にわけて、「直訳」、「意訳」、「訳漏れ」、「誤訳」に分類し、訳本二種の各々の特徴をまとめながら、比較を行いたい。

第五章を選んだ理由は三つある。まず緑川の「死のトークン」に関する話が登場するからである。「死」は村上文学のキーワードとしてよく登場し、「死のトークン」物語を通して村上の最近の「死生観」が伺える。次は、現代を生きる多崎や学生灰田よりも一世代上の二人を主人公として、『森』の舞台である一九六〇年代末を背景としていることで、当時の政治運動に関する議論も少くない点である。第三に、曲名や外来語などが多用されていることにも注目した。以上の三点を総合的に判断して、発表者は第五章の中韓翻訳を比較研究の対象とした。

比較対象となる翻訳版本は以下二点であり、このほか台湾と英語の訳本も参考にした。中韓両訳には筆者による再度の直訳である「再日訳」を付した。

原作：色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年 村上春樹 文芸春秋
二〇一三年四月一五日第一刷

中国語版本：没有色彩的多崎作和他的巡礼之年 翻訳者：施小炜 新經典文化有限会社 二〇一三年十月第一版（以下「施訳」と略す）

韓国語版本：색채가 없는 다자키 쓰쿠루와 그가 순례를 떠난 해 翻訳者：梁億寬 民音社 二〇一三年七月一日 第一版第一刷（以下「梁訳」と略す）

台湾繁体字版本：沒有色彩的多崎作和他的巡禮之年 翻訳者：賴明珠 時報出版社 二〇一三年九月二七日 初版一刷（以下「賴訳」と略す）

英語版本：Colorless Tsukuru Tazaki and His Years of Pilgrimage 翻訳者：Philip Gabriel Alfred A. Knopf Newyork 二〇一四年（以下「Philip 訳」と略す）

「直訳」「意訳」「訳し漏れ」、「誤訳」各分類の基準は下記の通りである。

直訳例：

17 節：ひょっとして、このあたりのどこかにピアノが弾ける場所はないだろうか。彼は灰田青年にそう尋ねた。

施訳：说不定这附近有什么地方可以弹弹钢琴？他问青年灰田。（再日訳：ひょっとしてこのあたりにどこかにピアノ弾ける場所あるか？彼は青年灰田に尋ねた。）

梁訳：“혹시 이 근처 어디서 피아노 칠 만한 데 없을까.” 그는 하이다에게 물었다.（再日訳：「もしかしてこのあたりのどこかでピアノ弾ける場所ないか。」彼は灰田に聞いた。）

施訳は逐語訳であり、順番と標点は原文と異なるが、意味は同じであるため直訳と判断する。また原文下線部の「そう」が訳出されていないが、文章全体に影響を及ぼさないため、「訳し漏れ」と判断しない。「訳し漏れ」

の判断基準は後述する。

梁訳は施訳と同様、逐語訳であるが、順番は原文に従い、標点は異なる。原文が表した意味と同じであるため直訳と判断する。しかし下線部の「青年」が訳出されていないが、前述と同じく「訳し漏れ」と判断しない。

意識例：

原文とは異なるが、誤訳ではなく意図的な処置と判断されるものを扱う。また原文にない語句が追加されている場合も意識と判断する。

24 節：… 緑川の演奏は芯の通った見事なものだと感じた。ピアノの音程の狂いが気にならないほど、そこには深い魂がこもっていた。

施訳：… 感觉绿川的演奏内质坚致，十分美妙，里面隐匿着纯粹的灵魂。让人无心介意钢琴音高的问题。（再日訳：緑川の演奏の内質は硬く繊細で、とても美しく、なかには純粋な魂が隠れている。人にピアノの音程の問題を気にさせなかった。）

施訳は原文の「芯の通った」を「内质坚致」に訳し、原文の順番を大きく変え「そこには深い魂がこもっていた」を前置した。そのため、意識と判断する。

訳し漏れ例：

本稿では発話主体の省略と長文の省略を「訳し漏れ」と判断する。

18 節：… 後でそこまで案内してもらえないだろうか、緑川は言った。灰田が旅館の主人にその話をすると、そういうことなら案内してさしあげなさいと言われた。…

施訳：… 回头可以请你领我去那儿吗？灰田把这话告诉旅馆老板，老板说既然如此就领他去吧。…（再日訳：… 今度そこまで案内してくれないだろうか？灰田はこの話を旅館の主人にすると、主人はそういうことなら彼に案内してあげなさいと言った。…）

梁訳：… 나중에 거기까지 안내해 줄 수 없겠느냐고 물었다. 하이다가 여관 주인에게 그 이야기를 하자, 길을 안내해 주라고 했다（再日訳：… 今度そこまで案内してくれないかと尋ねた。灰田が旅館主人この話をすると、道を案内しなさいと言った。…）

施訳では原文下線部の「緑川は言った」が訳出されていないため、訳し

漏れと判断する。一方、梁訳は下線部「そういうことなら」が訳出されていないが、「訳し漏れ」と判断しない。

誤訳例：

原文の意味を誤読して訳したと判断されるもの。

76 節：… 柔らかな、静かな雨だった。谷川の水音に消されて、その音は聞こえない。…

梁訳：… 부드럽고 조용한 비였다. 계곡의 물소리는 들리지 않았다....(再

日訳：… 柔らかで静かな雨だった。谷川の水音は聞こえなかった。…)

原文は雨音が谷川の水音に消されて聞こえないという意味であるが、梁訳はこのような場面状況を誤読して、谷川の水音が聞こえなかったと誤訳した。そのため、この節を誤訳と判断する。

1. 中国語訳版『色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年』の特徴

翻訳者施小煒（1957～）は中国上海の復旦大学外文学院を卒業し、1989年に日本留学した。約二十年間日本に滞在して2007年に中国へ戻り、現在上海杉達学院日本語系の教授を務めている。2009年村上春樹のエッセイ集『走ることについて語る時僕の語ること』以来、現在まで合計六点の村上春樹作品を翻訳した。

①直訳

施訳は逐語訳が多く、標点などは原作に従っている。八十五節のうち、五十七節が直訳である。

②意訳

意訳を含む節は二十一節あり、そのなかには、直訳困難な部分もあれば、訳者による意図的書き換えもある。

55 節：… 署名とか契約書とかそんなものは必要ない。役所仕事とは違うからな」

施訳：… 什么签名盖章呀合同呀统统不需要。跟政府机关的形式主义大不一样哦。”(再日訳：… 署名とか捺印とか契約書とかは全部いらない。政府機関の形式主義とは大いに違うよ …)

梁訳：서명 날인이나 계약서 같은건 아무 필요도 없어. 관공서 업무하고는

다르니까.”（再日訳：署名捺印とか契約書みないのは必要ない。
役所業務とは違うから ...）

施訳では「役所仕事」を「政府機関の形式主義」と書き換えたことがわかる。ここで伺えるのは日本語「役所仕事」に際し、中国人の政府機関のあり方に対するイメージを強調したのである。それは「違う」を「大不一样」を強調したことにも通じる。

41 節：...「遅い遅くないは、論理性とはまた別の問題です。」

施訳：...“太晚还是不晚，这是另外一个问题，跟逻辑无关。”（再日訳：“遅いか遅くないか、これは別の問題で、論理とは関係ありません。”）

梁訳：...“늦고 안 늦고는 논리성과는 다른 문제입니다.”（再日訳：“遅いか遅くないかは論理性とは別の問題です。”）

この例文をみると、直訳ではなく、原文の順番を変え、原文の「論理性とは別の問題」を「論理とは関係がない」という否定に置換した。

③誤訳

第五章において施訳には誤訳が一ヶ所ある。

37 節：... 基本的には論理を信じて、それを頼りにしています。そもそも
がそういう学問ですから。」...

施訳：... 我基本是相信逻辑的，把它当作靠山。我本来就是做这门学问。”
...（再日訳：... 僕は基本的には論理を信じて、それを頼りにしています。僕はそもそもこの学問をやっています。）

梁訳：...

기본적으로는 논리를 믿고 거기에 의지합니다. 애당초 철학이란 그런 학문이니까요.”（再日訳：基本的には論理を信じて、それに頼ります。そもそも哲学とはそんな学問ですから。）

この一文は緑川が哲学を専攻とする大学生灰田青年に論理を信じるかどうかについて尋ねるもので、灰田青年は論理を信じており、その理由は哲学がもともとそのような学問だからと答えたのである。しかし、施訳は、灰田青年が哲学という学問をしていると、意味を取り違えている。

④訳し漏れ

第五章には訳し漏れが合計九ヶ所あった。

45 節：... 集中なんぞ夜明けの露のように消えちまう。

施訳：... 全神贯注什么的会一下子消失。(再日訳：精神集中なんかはすぐ消える。)

梁訳：... 집중 같은 건 새벽 안개처럼 사라져 버려. (再日訳：集中なんかは夜明けの霧のように消えちまう。)

村上文学には比喩が非常に多いが、上記の例文の施訳には比喩の部分が省略されている。一方、梁訳では「夜明けの露」を「夜明けの霧」と書き換えている。韓国語では「夜明けの霧」という熟語があり、それはスピードの速さを強調する意味である。筆者はこの部分を帰化翻訳と判断する。

⑤名詞について

名詞について二つに分けて論じたい。施訳を見ると、まずは注釈をつけて名詞を説明しているところがわかる。

10 節：... 夜は一人で熱燗の酒をちょうど二合飲んだ。

施訳：... 晚上一个人喝两合^①烫热的酒。/ ①日本计量单位, 1 合约有 0.18 升。

(「/」は段落が異なることを示す。以下同。)

(再日訳：... 夜は一人で温めたお酒を二合^①飲んだ。/ ①日本の計量単位、1 合は約 0.18 リットル。)

梁訳：... 밤에는 데운술을 두합 마셨다. (再日訳：... 夜は燗酒を二合飲んだ。)

このような注釈付きの名詞にはもう一つ「団塊の世代」がある。この二点以外、曲名やバンド名、映画のタイトルは全部中国語で表記されている。これは外来文化が中国でも多く受容され、人々の生活の一部となったこととも言えよう。しかし『色彩』の場合、外来語の名詞は下記のように意識されることがある。

53 節：... その資格を、言うなれば死のトークンのようなものを、別の人間に譲り渡せばいい。...

施訳：... 只要把那个资格，说来就是到死亡之国去的入场券转让给别人就行 ... (再日訳：... その資格を、言うなれば死亡の国に行く入场券を別の人に譲り渡せばいい ...)

梁訳：... 그 자격을 말하자면 죽음의 티켓을 딴 사람에게 건네주면 돼 ... (再日訳：... その資格を、言うなれば死のチケットを別の人に渡せ

ばいい...)

「トークン」という概念はまだ中国と韓国に普及されていない外来語で、施訳では「入場券」、梁訳では「チケット」と翻訳している。これに対し台湾頼訳は「代幣」と翻訳しており、英訳本は「token」とそのまま原語に置換している。このように、翻訳側の言語に相当する単語のない外国語の翻訳には訳者は苦心するものであり、これに関してはこれまでも多くの議論が行われている。また下記のような例もある。

例文⁴: ... 僕はどうしてもその教授のゼミに入りたかったんだ。(二五頁)

施訳: ... 无论如何, 我就是想进那位教授的研究会。(一七頁) (再日訳: どうしても、僕はその教授の研究会に入りたかった。)

梁訳: ... 난 반드시 그 교수에게 배우고 싶었어. (三三頁—三四頁) (再日訳: 僕はどうしてもその教授から学びたかった。)

この例文は女性主人公の木元沙羅からなぜ大学進学先は名古屋の大学ではなく東京の大学を選んだのかと聞かれた際の多崎の答である。中国語訳では「ゼミ」を「研究会」と翻訳したのに対して、韓国語訳では「ゼミ」を翻訳せずに「その教授から学びたかった」と意識した。確かに、中国・韓国ではほとんど「ゼミ」という授業方法を導入しておらず、日本語における英語からの「ゼミ」は施訳、梁訳では意識されたのである。施訳が「一合」のように訳注で対応しなかったのは「ゼミ」が外来語であったことも理由の一つであろうか。一方、頼訳では「... 我無論如何非常想上那位教授的課程。(二三頁)」と翻訳され、和訳すると「僕はどうしてもその教授の授業にとっても出たかったの。」である。

2. 韓国語訳の特徴

翻訳者梁億寛(一九五六～)は韓国慶熙大学国文科を卒業し、日本の亜細亜大学経済研究科博士課程を中退、現在は翻訳専門家として活躍している。主な訳書に『アンダーグラウンド』(二〇一〇)、『ノルウェイの森』(二〇一三)などがある。

①タイトル

韓国ではタイトルの変更、即ち改題がよく行われる。例えば『ノルウェイの森』は『喪失の時代』や『蜚』として改題・出版されたことがある。『色

彩を持たない多崎つくと彼の巡礼の年』は『色彩を持たない多崎つくと彼が巡礼に行った年』と翻訳された。『巡礼の年』は同作によく登場するリストのピアノ曲名で、『色彩』の刊行によって同曲のCDも韓国で発売されはじめた。しかし、タイトルでは『巡礼の年』そのまま翻訳せず、『巡礼に行った年』、すなわち主人公多崎つくるが旅立つことに重点が置かれている。これは一種の意識であるが、韓国語では村上小説の場合は「巡礼の年」より「巡礼に行った年」がなじみやすいという意見も出ている。

②直訳

直訳は四十八ヶ所を占めている。訳者は日本語の漢字語彙を直接韓国語に翻訳している。例えば、鍵盤(건반)、帰結(귀결)、発揮(발휘)、鼓舞(고무)、刺激(자극)などがある。このような漢字語彙の直訳によって、文章が不自然になることもあり、異化性を高めている。

③意識

以前の韓国語訳では原文にない語句の挿入が多かったが、『色彩...』の第五章にはそのような部分がない。意識は原文を自国言語習慣に変更する「帰化」翻訳が目立つ。例えば前述の第45節である。

④誤訳

65 節 ... 御利益みたいなものもない。...

施訳：... 也不会带来什么灵验。... (再日訳：御利益みたいなものはもたらさない。)

梁訳：... 어떤 이익 같은 것도 없어... (再日訳：... どんな利益みたいなものもない。...)

この例文には、韓国語訳者は「御利益」を「利益」と誤解し、誤訳文が生まれたのである。このような訳者の理解ミスから生じた誤訳は前述の76節のように、本文には合計七ヶ所ある。

⑤訳し漏れについて

筆者の調査によると、第五章には訳し漏れが合計十ヶ所あり、主に発話主体の省略である。

34 節：緑川はある日、裏庭で薪を割って運んでいる灰田青年に声をかけた。

「君は酒を飲むか？」と彼は尋ねた。

「少しなら飲みます」と灰田青年は言った。

「少しでいい。今晚俺につきあってくれないか。一人で飲んでいるのにも飽きた。」と緑川は言った。

「夕方雑用があつて、七時半くらいになりますか」

「それでいい。七時半頃に俺の部屋に来てくれないか」

施訳：緑川有一天叫住正在后院劈柴搬柴的青年灰田。

“你喝不喝酒？”他回。

“只喝一点点的话没问题。”青年灰田回答。

“一点点就行。今晚陪我喝一杯。老师一个人喝酒，我烦了。”緑川说。

“傍晚我还有杂活要干，得等到七点半左右。”

“行。七点半左右到我房间来，好吗？”

梁訳：어느 날 미도리카와가 뒤뜰에서 장작을 패서 나르던 하이다를 불렀다.

“자네 술 마시나?” 그가 물었다.

“조금 마십니다.”

“조금이면 돼. 오늘 밤 나하고 어때. 혼자 마시는 것도 지겨워.”

“저녁때 할 일이 있어서요. 7시 30분쯤이면 되겠는데요.”

“좋아. 7시 30분쯤에 내 방으로 와 주게.”

ここで梁訳では「と灰田青年は言った」、「と緑川は言った」などの発話主体を表す部分が省略されている。これは昔の『ノルウェイの森』や『風の歌を聴け』などの訳本にもよく現れている現象で、このような訳し漏れにより発話主体が不明となる恐れがあるだろう。それでも梁訳が省略したのは流暢な文体を追及したからであろうか。これ以外は、例えば「そうだな」、「そういうことなら」など対話の相手の発言を受ける言葉が省略されている。

⑥外来語の訳語に対する英語表記の添付

23、24 節：

『ラウンド・ミッドナイト』、セロニアス・モンク

施訳：《午夜时分》撒隆尼斯・蒙克

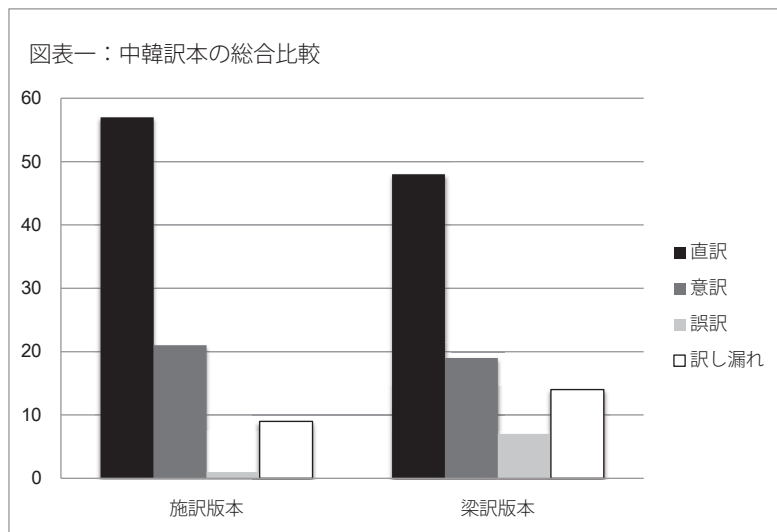
梁訳：「라운드 미도나이트 (Round Midnight)」, 셀로니우스 몽크 (Thelonious

Monk)

村上文学の一つの特徴は外来語の多用と言えよう。外来語の翻訳に関して、中韓両国の翻訳者は各々工夫してきた。ここでみるかぎり、現在外来文化を多く取り入れている両国では、それほど苦労はなさそうに感じられる。しかし、上述のように「トークン」や「ゼミ」のような普及していない外来語をどのように翻訳するかは、まだ大きな課題となっている。

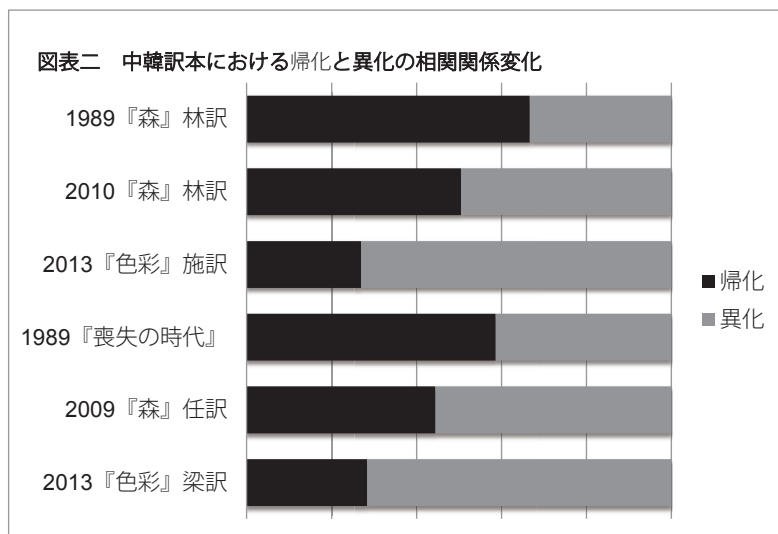
四. 総合比較

筆者は第五章を八十五節に分け、各節を直訳型、意識型、誤訳あり、訳漏れありの四種に分類してみた。その結果は図表一の示すようである。同一節に直訳・誤訳などが混在している場合は各分類に加算した。



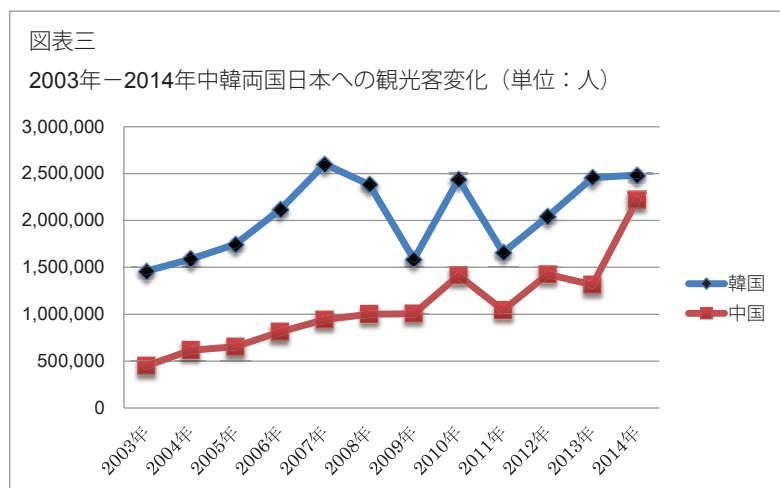
図表一が示すように、中韓両訳本では共に直訳が半分以上占めており、意識は四分の一程度にすぎない。意識の部分をも具体的に検討すると、韓国では原文を帰化しているところがある。この二十年以来、翻訳特徴の帰化・異化に関する議論が続いており、中韓両国の訳者は翻訳過程において訳漏れと誤訳を避けるべくより多くの努力を払っており、翻訳の質は上昇し続

けている。筆者は二〇一二年十二月第四回ソウル・東京中国現代文学ワーク・ショップにおいて『ノルウェイの森』の中国語訳・韓国語訳を比較し、中韓両国とも意識から直訳への転換期に入っていると報告した⁵。本稿は同報告の続きであり、現在訳本における直訳化が進行中であることが伺える。翻訳者は原文の再現に力を注いでおり、かつての韓国語訳では書き換えが目立ったのに対し、梁訳はこの過去の慣行を大きく改善してはいるものの、施訳と比べると訳し漏れや誤訳がやや多いことがわかった。次に直訳から意識への変換について、本稿では直訳 — 異化、意識 — 帰化と分類し⁶、異化と帰化との相関関係図の作成を試みたい。最近の『色彩』と以前の翻訳との比較を行うため、『ノルウェイの森』林少華訳本（一九八九年七月第一版）、『ノルウェイの森』同訳本（二〇一一年八月第一版 映画特別版）、『喪失の時代』の柳柳呈訳本（一九八九年六月第一版）、『ノルウェイの森』任洪彬訳本（二〇一〇年八月初版七刷）の各々第三章のみどりの登場部分を中韓両国の過去の訳の例として取りあげている。その結果は図表二である。



図表二からは、一九八九年から現在まで中韓両国とも村上文学の翻訳は、異化傾向を強めていることがわかる。中国における村上春樹文学の受容をめぐる、藤井省三は四大法則、つまり、「時計周り法則」、「経済成長踊り場の法則」、「ポスト民主化運動の法則」、「森高羊低の法則」を指摘している⁷が、これに第五の法則として「異化翻訳化の法則」を加えられようである。異化翻訳の原因としては読者層の変化を指摘できよう。一九九〇年代の韓国で村上春樹文学を受容したのは当時の三八六世代、すなわち、六〇年代に生まれ、八〇年代の民主化運動に参加し、九〇年代には三〇代に入る人々とされる⁸。中国も同様に一九八九年に小規模の村上ブームが起きた際、初期読者層を構成したのが、民主化運動の挫折後に『ノルウェイの森』に共感を覚えた若者たちであった⁹。しかし二十一世紀に入ってから、読者数の急増に伴い、読者層も変化しつつあった。韓国の大型書店である教保文庫が二〇〇三年から一四年九月二〇日まで同書店で村上春樹作品（長編、短編、エッセイなどの全作品）を購入した読者年齢層を調査し、同調査によると村上文学の読者層は二〇代、三〇代から四〇代へと拡大したという。同記事は「家族で春樹を?!」というタイトルを掲げ、やがて家族全員で村上の新作を読む日は遠くないと予測している¹⁰。筆者が「豆瓣網」における『色彩』書評を調査する際、ユーザー「我就是小四」は妻と同じく村上春樹のファンで、自宅では村上博物館のように、ほとんどの村上作品を持っており、妻と共に『色彩...』を読んだという¹¹。徐子怡が二〇一一年と二〇一三年に書き込みサイト「豆瓣網」で行った調査¹²によると、村上文学の読者層は二〇代から四〇代であり、彼らの村上作品の初読書年齢は一〇代から三〇代である。これにより、現在中国の村上読者層も一〇代から四〇代まで幅広く分布していることがわかる。また中韓両国の国民は共に、経済成長に伴い外来文化に接触する機会が増えてきた。例えば、二〇〇三年から二〇一四年までの訪日人数¹³は、図表三が示すように、韓国の場合は二〇〇四年から毎年一五〇万人以上の人々が来日し、二〇〇七年にピークを迎える。また、中国大陆は短期の観光でもびざ取得が必要という事情関係もあるため日本への観光客は韓国ほど多くはないが、二〇〇三年からその人数は増加し続け、二〇〇八年に一〇〇万

人を越える。また二〇一四には急上昇し、二〇〇万人を突破した。それと同時に、日本語学習者も年々増加している。独立行政法人科学技術振興機構の調査によると二〇一二年の中韓両国の日本語学習者はそれぞれ一〇四万六四九〇人と八七万二四〇六人いる¹⁴。このように日本文化や日本語に接した人が増えるとともに、より一層村上学語日本語原作に近い異化翻訳へのニーズも増えてきたと考えられるのである。図表二からは帰化翻訳の速度は中国訳書の方が韓国訳書よりも早いことが読み取れる。それは来日観光客の中国における急増傾向と一致しており、非常に興味深い。



最近数年間、日中・日韓関係は緊張しており、互いに「嫌中・嫌韓」、「嫌日」の情緒を抱く国民が増えていることは残念なことである。これに対し、村上学語の中韓翻訳の隆盛と、その「異化翻訳化の法則」は文学による相互理解の拡大と異化という希望の所在を指し示すものと言えよう。

1 藤井省三『村上春樹のなかの中国』朝日新聞社 二〇〇七年 徐子怡『『ノルウェイの森』から墨脱の『蓮花』へ』『東方学』第百二十七輯 東方学会 平成二十六年一月号 一一六頁

- 2 村上春樹『ノルウェイの森・下』任洪彬訳 二〇〇八年 文思メディア出版社 二九七頁
- 3 「豆瓣網」書評「初次讀《巡禮之年》的一點感想」二〇一三年十一月八日 <http://book.douban.com/review/6386427/> 二〇一五年一月二〇日閲覧)
- 4 原文は第一章の一文であり、ここでは外来語「ゼミ」について論ずるため抜粋する。
- 5 「村上春樹文学在中国與韓国的翻譯與接受狀況的比較研究 — 以『ノルウェイの森林』為中心」第四回ソウル・東京中国現代文学ワーク・ショップ 二〇一二年一月二七日 韓国・高麗大学にて
- 6 「直訳 — 異化翻訳」、「意識 — 帰化翻訳」の分類に関する討論は多くなされてきた。代表的なのは楊炳菁「文学翻訳と翻訳文学 — 中国大陆における村上文学の翻訳と受容をめぐる」(二〇〇九)、于桂玲「中国版『ダンス・ダンス・ダンス』の版本研究 — 村上春樹の翻訳における受容と変容」(二〇〇九)がある。
- 7 藤井省三『村上春樹のなかの中国』朝日新聞社 二〇〇七年 七六頁、七七頁
- 8 金碩子『韓国の村上春樹』国文学 一九九五年三月一一八頁
- 9 藤井省三『村上春樹のなかの中国』朝日新聞社 一五九頁
- 10 「온 가족이 하루키를 ?? 무라카미 하루키 독자 연령대 변화」二〇一四年九月二十三日 http://news.kyobobook.co.kr/it_life/kimdbView.ink?sntn_id=9362
- 11 「豆瓣網」書評「《沒有色彩的多崎作和他的巡禮之年》读后感」二〇一三年十一月二九日 <http://book.douban.com/review/6438373/> (二〇一五年一月二〇日閲覧)
- 12 徐子怡「中国における村上チルドレンと村上ファッション」『ユリイカ』青木社 二〇一二年七月号 三八頁「中国の村上春樹読者は如何に『村上チルドレン』を読むのか — 『豆瓣網』における中国の村上読者に対する安妮寶貝の読者調査」東京大学中国語中国文学研究室紀要 第一六号 九三頁
- 13 日本政府観光局ホームページによるデータ：<http://www.jnto.go.jp>
- 14 中国科学技術月報二〇一三年九月号(第八十三号)二〇一三年九月一日